

《子どもたち一人ひとりが自分の色で輝くように》

新年、あけましておめでとうございます。

2020年1月WHOより「新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言」が出され、この3年間は日本国内においても、感染防止策として行動制限、移動制限など様々な制限がなされてきたところですが、昨年5月に緊急事態宣言が解除され、あらゆる制限も緩和されたことで、皆様におかれましては、この年末年始は、数年間、会えなかった人たちと会えたり、再会があったり、久しぶりの集まりなどもあり、より一層賑やかな楽しい新年を迎えられることになったのではないのでしょうか。

昨年末の園の行事においても、発表会は入場制限をなくし、より多くの保護者の皆様に子どもたちの素敵な姿を直にご覧いただくことができ、また、年末恒例の“もちつき”においては3年ぶりに、しろぐみさん(年長クラス)の祖父母の方々や地域の親子にお越しいただき、“よいしょ、よいしょ”の大きな掛け声や声援に子どもたちも意気揚々とおもちをつき、これまで経験できなかったことを経験したり、たくさんの方々との関わりがあり、さらに多くの笑顔が見受けられました。ありがとうございました。

さて、「みみょう」という法人名、4月の会長松尾龍一の園だよりにもありましたが、その由来は「微妙香潔(みみょうこうけつ)」および「微妙音(みみょうおん)」にあります。仏説阿弥陀経(お釈迦様の教え)の中に「地中蓮華、大如車輪。青色青色、黄色黄光、赤色赤光、白色白光。微妙香潔。」(ちちゅうれんげ、だいによしゃりん、しょうしきしょうこう、おうしきおうこう、しゃくしきしゃっこう、びやくしきびゃっこう、みみょうこうけつ)という言葉があり、これは「大きな車輪のような蓮の花が咲く様は、青き色には青き輝きがあり、黄なる色には黄なる輝きがあり、赤き色には赤き輝きがあり、白き色には白き輝きがある。それぞれの色の花が咲き輝いている様子は、えもいわれぬ芳しい香りがあり、何とも言えないほど美しい」ということを表現しています。

この由来に基づき、みみょうにおいては子どもたち一人ひとりの良いところ、興味関心があること、好きなことを見つけ、それを熱中してとことんまで楽しみ、さらに探求して、伸ばしていけるよう関わっています。また、保育者主導で何かを教え込んだり、やらせたりするのではなく、子どもを主体とした子どもたち一人ひとりが自分で考え判断することを大切にしています。子どもたちは、好きなこと、やりたいことを自分で選んで自分で決めることで、さらに集中して取り組むようになり、責任を持つようになります。そして、好きなことの楽しさや面白さを周りの友だちや親しい人に伝えようとしていたり、共有しようとしていたりします。そして、「楽しいね」と共感してもらえたり、「すごいね」とほめてもらったりすることで、自己肯定感が高まり、さらに次なる挑戦をしようとしています。子どもたち一人ひとり、好きなこと、得意なこと、その心もちは違います。それは、それぞれが持っている個性であり、その子自身です。引き続き、それぞれの子どもたちが何を思い、何を感じ、何を欲し、何を望んでいるのかを察しながら、子どもたち一人ひとりが自分の色で輝ける場を作っていきたいと思えます。

第二みみょうこども園では子どもたち自身が「自分で選んで自分で決めた(自己決定できる)」環境づくりに取り組んでおり、「クラスの垣根を越えて自分で選んで遊ぶコーナーづくり」や、「自分の食べたい時間に給食を食べる」などを始めました。課題は、まだまだたくさんありますが、子どもたちの様子を振り返り、語り合い、さらに楽しく、子ども主体となる環境をみんなで考えていきたいと思えます。ご家庭におかれましては、その時々の子どもの思いや心もちを汲み取りながら、そこに変化や成長が見られた時、是非とも教えてください。それらを共有させていただくことで、子どもたちの“もっとこうしたい、やりたい”が叶えられる環境づくりへ生かしていきたいと思えます。

引き続き、子どもたちを真ん中に“共育で”よろしく願います

